

総合的な探究の時間におけるデジタルアーカイブの活用 ～郷土愛を育むための「ふるさと教育」に関するアンケート調査からの考察～

山村菜摘・齋藤陽子（岐阜女子大学）

1. 高等学校における総合的な探究的時間とデジタルアーカイブの活用の可能性

本研究は、高等学校における総合的な探究の時間で、生徒自らの手でデジタルアーカイブを作成することで、郷土愛を養うとともに、探究活動の充実を図ることができるのか。このことについてアンケート調査を軸に、郷土愛を育むために総合的な探究の時間におけるデジタルアーカイブの活用の方法について考察していくことを目的とし、研究を行った。

2. 高等学校における総合的な探究的時間

高等学校における「総合的な探究的時間」は、小・中学校における総合的な学習の時間の取組の成果を生かしつつ、より探究的な活動を重視する視点から、位置付けを明確化し直すことが必要と考えられ、令和3年度までの「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」へと変更がされることとなった。この「総合的な探究の時間」では、小・中学校での「総合的な学習の時間における取り組み」を基盤とした上で、各教科・科目等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的・統一的に働かせること、自己の在り方や生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら「見方・考え方」を組み合わせさせて統合させ、働かせながら、自ら問いを見出し探究する力を育成することが求められている。

各学校においては、総合的な探究の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題を設定することが求められ、探究課題として4つの課題「横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）」「地域や学校の特色に応じた課題」「生徒の興味・関心に基づく課題」「職業や自己の進路に関する課題」が学習指導要領にも例示されている。

3. 岐阜県における「ふるさと教育」

総合的な探究の時間における探究課題の例として「地域や学校の特色に応じた課題」が探究課題の一つに掲げられているが、岐阜県では「岐阜県教育振興基本計画 第3次」において「ふるさと教育」の充実をうたっている。この教育では、「ふるさと岐阜」への誇りと愛着をはぐくむ、ふるさと教育の推進が求められている。子どもたちが、ふるさとの自然や文化等をよく知り、また、自らがふるさとで活躍していく将来像を描けるようにしていく必要があることも示されている。このことが「岐阜県」という地域の課題と捉えることができる。そこで、岐阜県の高등학교の生

徒のふるさと教育の実態をアンケート調査より把握した。

4. ふるさと教育の現状～高校生へのアンケート調査結果から～

アンケート調査は、2021年6月24日から2021年6月30日にかけて、G高等学校に在籍する全生徒980名を対象に、Googleフォームでのアンケート調査を行った。全体の22.9%である224件の回答を得た。

①地元は好きか：地元が「好き」「どちらかといえば好き」と回答した生徒は83.0%（図1）

②デジタルアーカイブを知っているか：「聞いたことがない」が81.3%の回答（図2）

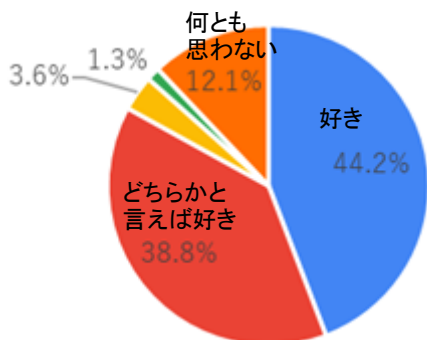


図1. 地元への愛着

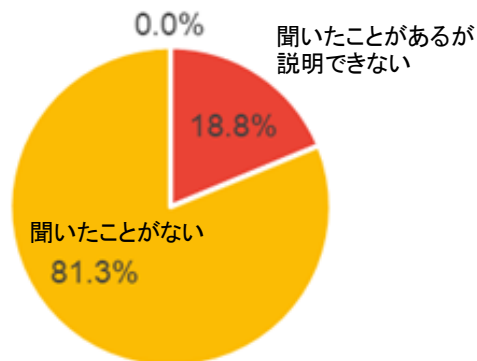


図2. デジタルアーカイブの認知度

③ふるさと教育の経験：高校生の「ない」との回答は78.1%（図3）

④地元が好きか×ふるさと教育の経験：地元は好きだがふるさと教育の経験はないの回答71.7%（図4）

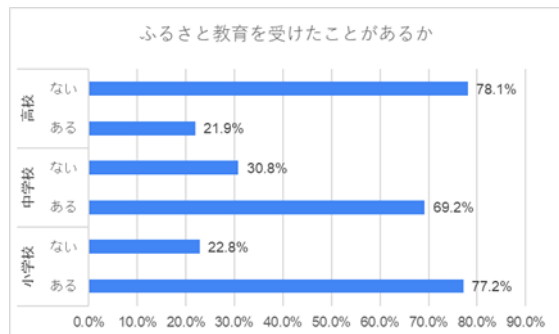


図3. ふるさと教育の経験

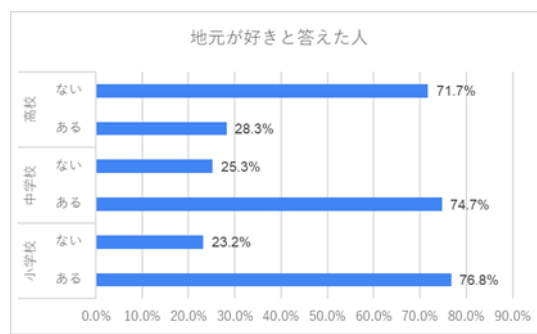


図4. 地元への愛着とふるさと教育の経験

アンケート結果から、ふるさと教育の実施の有無と郷土愛との関連性が見出されなかった。一方ふるさと教育への意見114件のうち、体験的な学習を望む回答が26件、自分たちで何か提案したいという回答が2件あり、体験的実践的な学びを求めていると分かった。ここにデジタルアーカイブ活用の可能性の示唆を得た。地域に密着した学びの重視、文化の継承において、総合的な探究の時間と地域デジタルアーカイブは親和性が高いと推測される。そこで、総合的な探究の時間で地域デジタルアーカイブを活用したふるさと教育を行うことを提案したい。このことは生徒が求めている体験的実践的な学びともなり、地域をデジタルアーカイブする活動を通して地元への愛着形成が図られていくものと推察している。そのためには、認知度の低いデジタルアーカイブを小学生から段階を踏んで親しんだ上で高等学校での活用が必要と考察した。

（本稿は、山村菜摘士論文（令和3年度受理）「総合的な探究の時間におけるデジタルアーカイブの活用～郷土愛を育むための「ふるさと教育」に関する一考察～」から、調査結果の一部を元にまとめたものである。）